



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和8年9月1日

日が落ちる時間も少しずつ早くなり、朝夕には秋の訪れを感じるようになりました。一方で、9月以降も厳しい暑さが続くことが予想されます。気温や天候、子どもたちの体調を見ながら活動時間を調整し、きめ細かに水分の補給や休息を取り入れながら、健康に過ごせるよう配慮していきたいと思います。

9月は、さまざまな遊びを通して、子どもたちが「やってみたい」「もう一度やってみよう」と思える経験を大切にしていきます。運動遊びでは、かけっこ、リズム遊び、鉄棒、跳び箱など、繰り返し楽しむ中で、少しずつ身体の動かし方を身につけることができるようになるまで試行錯誤したりする姿を見守っていきます。また、にじみ絵やスタンプ遊びでは、色や形の変化を楽しみながら、「こうしたらどうなるかな?」と試したり工夫したりする経験を大切にします。子どもたち一人ひとりの「やってみたい」という気持ちを受け止め、遊びの中で自分なりに考え、表現する力が育っていくよう、丁寧に関わっていききたいと思います。

季節の変化を感じながら、子どもたちの「やってみたい」がたくさん生まれる9月にしていきたいと思います。



行事予定

日	曜日	園児に関すること
1	火	避難訓練、身体計測(3歳児・5歳児)
4	火	身体計測(2歳児・4歳児)
7	月	視力検査(午前:3歳児)
8	火	身体計測(1歳児 Aクラス)
9	水	身体計測(1歳児 Bクラス)、視力検査(午後:5歳児)
11	金	視力検査(午後:4歳児)
14	月	聴力検査(午前:ぺんぎん・午後:たんぽぽ)、弁当日
15	火	聴力検査(午前:いるか・午後:すみれ)
16	水	聴力検査(午後:きりん)
17	木	健康診断、身体計測(0歳児)
18	金	聴力検査(午後:ぞう)
28	月	誕生会

新しい職員の紹介

9月より、新しい職員が仲間入りします。子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、楽しく安心できる園生活を一緒につくっていききたいと思います。

これからどうぞよろしくお願いいたします。



きたはら やすこ
北原 泰子先生

担当 いちご組

お知らせ

- ※ 9月は、3歳から5歳児までの子ども対象に視力・聴力検査を行ないます。という実にもどうしても都合がつかず、検査を受けることが難しい場合は、予備日を設けていますので、担任までお知らせください。
- ※ 9月3日(木)~4日(金)、大分市立滝尾中学2年生の生徒が職場体験学習のため来園します。子どもたちと一緒に遊んだり、保育のお手伝いをしたりしながら、保育の仕事について学びます。
- ※ 8月の保育料、給食費、延長料金等の支払い日は、9月10日(木)となります。
- ※ 9月の弁当日は、14日(月)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお持ちください。

子どもが望む大人の世界⑪ ～17の子どもの願い～

キッドワールドこども園総合園長 牧野 桂一

前回までに紹介しきれなかった⑬番目の「人として美しい親になる」について、今回は考えてみたいと思います。

子どもは、親から「こうしなさい」と教えられるだけではなく、日々の生活の中で、親の言葉や表情、態度、人との関わり方などをよく見ています。心理学者バンデューラの「社会的学習理論」では、子どもは身近な人の行動を観察し、真似ることを通して、社会的な行動や考え方を学ぶ「モデリング（観察学習）」が重要であるとされています。つまり、親の姿そのものが、子どもにとって「生きた教材」になるのです。

では、「人として美しく生きる」とは、どのようなことでしょうか。それは、外見を整えたり、何でも完璧にできたりすることではありません。人に誠実に接すること、相手を思いやること、間違えたときには素直に認めること、失敗してもそこから学ぼうとすることなど、一人の人間としての生き方の美しさです。

例えば、家庭で子どもが何かをこぼしたとき、「どうしてこぼしたの!」と責めるのではなく、「大丈夫。一緒に片付けよう」と声を掛ける。誰かに助けてもらったときには、子どもの前で「ありがとう」と伝える。親自身が間違えたときには、「お母さんも言いすぎたね。ごめんね」と素直に謝る。こうした何気ない姿が、子どもにとっては「人との関わり方」を学ぶ大切な経験になります。

また、自分自身を大切にすることも「美しく生きる」ことの一つです。身だしなみを整える、好きなことを楽しむ、疲れた時には休む、自分の気持ちを大切にすること。例えば、「今日は少し疲れたから、ゆっくり休もう」と自分をいたわる姿も、子どもに「自分のことも大切にしてい」というメッセージを伝えます。

子どもが成長すると、親の「美しさ」の捉え方も変わっていきます。小さい頃は、おしゃれをしたお母さんや身なりを整えたお父さんを「素敵だな」と感じるかもしれません。しかし、成長するにつれて、「困ったときにどう振る舞うか」「人にどのように接するか」「失敗したときにどう向き合うか」といった、生き方そのものに心を動かされるようになります。大切なのは、『完璧な親になることではありません。』迷ったり、失敗したりしながらも、自分を大切に、人を思いやり、誠実に生きようとする姿を子どもに見せることです。こうした姿は、子どもが「自分もやってみよう」と思える自己効力感や、自分自身を肯定的に捉える力を育てる土台にもなります。「人として美しく生きる」とは、立派な姿を子どもに見せ続けることではありません。「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言うこと、人に優しくすること、失敗してもやり直すこと、自分自身を大切にすること。

そんな日々の何気ない親の姿こそが、子どもにとっては何より身近な「生きた学び」です。忙しい子育ての中で、完璧でなくても大丈夫。親が自分らしく、一生懸命に生きる姿そのものが、子どもの未来を支える大切な力になっていくのではないのでしょうか。